

趣意書

氷ノ山、後山、那岐山国定公園の主峰、氷ノ山を中心とする但馬、奥播磨にまたがる兵庫の屋根を形成する山岳地帯は、かつてはブナ、ミズナラなどを主とする夏緑広葉原生林におおわれて、国定公園にふさわしい貴重な自然が美しく息づいていました。ところが戦中戦後、国有林、町有林、民間有林を問わず、広範囲にわたって伐採が行われ、松、杉などの針葉樹に植え替えられて、今わずかに氷ノ山奥山国有林とその一部に残存するのみという貧弱な状態になりました。

とくにブナ林は温帯を代表する樹種で、4ヶ月以上も積雪を見るという厳しい自然条件にも順応して、この山城を保全するとともに、抜群の水源かん養と肥沃な土壌の生成や、完璧な自然環境の保持によって、人々の暮らしや、野生の鳥類、ケモノたちや昆虫類、また美しい溪流の小魚や海浜の魚介類などの繁殖にも多大な恵みを与える適材適地の、貴重な財宝でもあります。また近年は4季を問わず各学校の集団や各地の登山会、その他同好会のグループ等の入山者が急激にふえてきております。その人達にとってもブナ林のある自然環境は絶大な魅力であります。

ブナ林の伐採された山稜をそのまま放置しておく、天然記念物「イヌワシ」もやがては「コウノトリ」のような運命に追いやられるだろうし、「ツキノワ熊」をはじめ野生の動物たちも絶滅の運命を辿ることになりましょう。又、山そのものも荒廃を招く恐ろしい地すべりなどの結果になるかも知れません。それらを含めて治山、治水、冬山の遭難防止、自然環境の保護育成、ならびに観光的景観の創造等を目的に、森の母とも緑のダムとも言われるブナの林を復活させ、緑豊かな山野を取り戻すことは私どもの切なる願いであります。

このような目的のもとに、阪神間に居住する山登りの同好者が中軸となって、「ブナを植える会」を昭和55年（1980年）10月に結成いたしました。幸いにも兵庫県林務課各位の適切なお指導を得、但馬地域の各町の深いご理解とご協力を賜り、現在までに各町の山々へすでに11,000本近くのブナの苗木を植えさせていただくことができました。厚く感謝申し上げますとともに、なお引き続いて毎年植栽の地域を広げながら植え続けてゆきたく念願しております。

しかしながら、皆様もご存知の通り、ブナは成長に長い年月のかかる樹でありまして、私どものこの事業は誠に息の長いものであることを深く覚悟すると共に大きな責任を感じます。

つきましてはお一人でも多くの同好の皆様のご賛同を賜り、年毎に植え続けていくブナの苗の里親になって頂きその育成により森を復元し、豊かな自然を復元していく事業にご理解を賜り、ご支援をくださいますようお願い申し上げます。又、これを何としても次の世代の若い人たちに引き継いで行けるように念願して

「ブナ基金」を設置、その運営によって後継者たちの活動の一助となりますよう祈っております。どうかご賛同とともに 毎年のブナの植樹やその他の会の行事にも ご参加頂き、ブナの里親のグループを巾広く各地に拡げてゆくことが念願で御座います。

ブナを植える会